

旧和合警備所

菅井 進氏著「和合警備所・考」1998年より

■和合消防の拠点

和合警備所は朝日町和合の宿区地内の旧国道287号線に沿い、和合地区集落のほぼ中央に位置し、南東に向かう住宅地内町道と旧国道が三叉路をなし、少し広くなっている南側隅の所にある。町道を隔てて向かい側に「水上神社」の標識石塔があるが、以前この辺りに木造ハシゴ状の警鐘台が設置されていた。昔、警備所前の小さい広場は、1月15日のおさいとう（どんどん焼き）、お神楽興行の催し、夏は瀬戸物の夜店が立つなどして賑わった。消防の拠点として、消防団員の集合場所であったのはいうまでもない。



■珍しいコンクリート造り

かなり古い時代に建てられた、近代風コンクリート造りの消防ポンプ小屋は県内でも珍しい建物ですが、建設されたのは昭和10年（1935）とされ、施工者は和合小原出身で、荒砥町で土建業を営んでいた奥山源太という人であり、祖父の菅井惣右衛門がコンクリートの仕事を請け負ったということを知っている。このコンクリート造りの警備所が建てられる前の古いポンプ小屋は、木造二階建てのものであったが、建物の傷みと手狭になったことと合わせて、それを解体し、新たにコンクリート造りの建物が造られたのであった。この詰め所の主な目的は、養蚕の火の用心のために団員が4名ずつ交替で夜警（寝ずの番）、あるいは部落内の巡回に当たった。（春蚕・秋蚕時の2回、1回に10日間ほど行なわれた。）

■役割を終えて

昭和35年（1960）和合地区に初めて消防自動車配置され、この時沼向区に車庫が建設され、やがて警鐘台も宿区から沼向区に移転され、和合警備所は消防の拠点としての役割は

終えた。しかし、コンクリート造りの堅牢な建造物は内部を2部屋に分けた板仕切りと、正面木の扉（2ヶ所）が取り外され、いらなくなったものの、和合の消防の拠点だった往時の面影を確かな形骸として見ることができる。今は、宿区のゴミ集積所及び、奥に木製ベンチを置き、待合所あるいは雨宿り場所の役割を果たしている。

この警備所の建物もこれまで何回か取り壊しの相談がもちあがったようだった。しかし、建物の壊しにくい堅牢さが撤去の計画を阻んで来たことも事実と思われる。四半世紀に及ぶ和合消防団の拠点としてこれを考えるとき、輝かしい消防の歴史を物語る文化遺産（文化財）として長く保存するに足る建物ではないだろうか。

■看板文字

建物正面上方に、右から左への横書きの楷書で、大きく浮き彫りされた「所備警合和」の文字は、和合出身の著名な書道家、佐藤示右（後に祐豪、本名祐五郎、1905〈明38〉～1991〈平3〉）の筆によるものであった。



緑色に彩られた文字の大きさは9寸（27cm）大、長さ6尺6寸（2m）余り。

村人の話によると、この和合警備所の看板文字は、祐豪先生にはなぜか気に入らぬ文字だったと見え、生家を訪れる際ここを通られる時は、顔を横向けられたと言う。



菅井 進（すがいすすむ）氏

昭和4年（1929）和合生まれ。
元朝日町教育委員長。元NPO法人朝日町エコミュージアム協会理事長。